

活動を支え続けた言葉
「いつも楽しみに待っている」

今年で41年目を迎える『末吉点字教室』は、「視覚障害者の方に読んでほしい」という思いのもと、代表の蔵田房子さんをはじめ、7人のメンバーで構成されています。月2回の集まりでは、それぞれが自宅でパソコンに入力してきた南日本新聞の一面コラム『南風録』と同紙の人気コーナー『黒字ヨカ』を校正後、点字プリンターで印刷する作業がメインです。点字の世界も高齢化が進み、視覚障害者の中でも点字を読める人が少なくなってきたのが現状ですが、「いつも楽しみ待っている」という声を励みに、40代〜80代までのメンバーが活動を続けています。「読んでくれる人の『待っている』の言葉が何よりの元気の素です。家にいながら一人でコツコツできるのも長続きの秘訣かもしれません」と



末吉点字教室(そお生きいき健康センター内)



①「県内でなくとも読んでいただける方がいれば連絡をもらいたい」と話す、左からメンバーの吉村みゆきさん、内田元子さん、蔵田房子さん。②校正が終わったものを点字プリンターで出力。お互いの信頼関係からメンバーの息もぴったり。③一文字一文字手打ちで行う点字器。④点字器と校正に欠かせない「点訳のてびき」「点字表記辞典」。

笑う蔵田さんは、点字に関わって今年で20年目。昨年は点字を通して視覚障害者の人たちと交流も行いました。半日を費やすという二人一組の校正作業は、パソコンの点訳ソフトによって作成されたものをパソコン上で読み上げながら行います。言葉の意味をきちんと理解した上で、人名や地名に間違いのないようその都度調べるほか、特に頭を悩ますのが鹿児島の方言だとか。さらに、一マスあけて文章を綴る、分かち書き、や、ひらがな・カタカナの区別がない、かな文字体系など、点字独特の表記法もあって校正は大変な作業だといいます。

時には、市内の小・中学校で出前講座も行い、携帯用の点字器で実際に子どもたちに点字を打ってもらうことも。「子どもたちからは『将来点字に関わる仕事がしたい』『障害のある人のお手伝いをしたい』など嬉しい反応が来てくれることも多く、視覚障害者を知るきっかけになれば」と蔵田さん。「読む人がいる限り今の活動を続けたい、曾於市に限らず一人でも多くの人に読んでもらいたい」。メンバーの熱い思いは、確実に読む人に届いていることでしょう。

末吉点字教室
(そお生きいき健康センター内)

曾於市末吉町二之方2342-2
TEL 0996-76-5353

